



大連交通大学・国際文化交流学院 留学生 森野昭

日本文	中文
<p>先週の土日に、私は学友と三人で丹東へ旅行しました。丹東は鴨緑江に面しており、対岸は北朝鮮です。土曜日に大連駅前から高速バスに乗りました。約4時間で丹東に着きました。昼ご飯の後、まず鴨緑江に行きました。そこには二本の鉄橋があります。一つは現在中朝の交通に使われています。もう一つは、朝鮮戦争のときに、アメリカの空軍の爆撃により破壊されました。これが「断橋」です。断橋を見たあとで、我々は遊覧船に乗りました。河の兩岸の一方に中国、もう一方には北朝鮮があります。北朝鮮と比べて中国の経済の発展が理解できます。</p> <p>翌日(日曜日)、我々は「虎山長城」を見物しました。虎山長城は北京の近くの長城と比べて規模が小さいです。しかし、発達嶺より観光客が少ないです。我々はゆっくりと散歩し、北朝鮮を眺めました。</p> <p>とても楽しい旅行でした。</p>	<p>上周的星期六、星期天我和两个同学一共三人去了丹东。丹东在鸭绿江边, 它的对岸是北朝鲜。星期五我从大连火车站前面乘坐高速巴士。大约四个小时左右到达丹东。午饭以后, 前往鸭绿江。那里有两座铁桥。一座现在用于中朝交通。另一座桥, 在朝鲜战争的时候, 被美国空军轰炸过, 破坏了。这就是“断桥”。看过断桥以后, 我去乘坐了游览船。河的两岸一边是中国, 一边是北朝鲜。我感到中国的经济比北朝鲜的经济发达。</p> <p>第二天(星期天)我去了「虎山长城」。虎山长城比北京附近的长城规模小。和八达岭相比, 观光客少。我在长城上散步, 眺望北朝鲜。</p> <p>真是愉快的旅行啊。</p>

拉致問題、核開発、三代目の金総書記など日本のマスコミ報道には北朝鮮の話題に事欠きません。しかし、実際の北朝鮮は私の生活には無関係の遠い国に思えました。ところが、現在留学中の大連市からバスに乗ってわずかに4時間で、北朝鮮を身近に感じるところがありました。6月14、15日に、北朝鮮との国境の町「丹東市」に同学の三輪さん、野田さんと三人で旅行しました。

下の地図に示すように、遼東半島の先端の大連からバスで4時間のところにある「丹東」では、「鴨緑江」の対岸に北朝鮮を眺めることができます。汽車で行くと、省都「瀋陽市」を經由して丹東までは三角形の二辺をなぞるように通るので、10時間以上もかかるそうです。中国では長距離バス路線が発達しているので便利です。丹東の町を歩くと、商店の看板には中国語の「簡体字」の下に、朝鮮文字の「ハングル」が添えられており、朝鮮の雰囲気があふれています。



朝鮮の雰囲気漂う街角で野田さんと三輪さん

## ■ 鴨緑江

駅前のホテルで三人部屋（350 元；約 6000 円）を予約し、昼食を摂ってから、さっそく鴨緑江へ行きました。鴨緑江には中国と北朝鮮を結ぶ二本の鉄橋が架かっています。一本は中朝の交易に使われている現役の橋です。もう一本は、元々日本が朝鮮と満州を支配下に置いていた 1941 年に架けたものですが、1950 年に勃発した朝鮮戦争のときに、金日成の北朝鮮軍を支援した中国が軍需物資を輸送するために使ったそうです。その輸送ルートをつ断つためにアメリカ空軍の爆撃機が橋を破壊し、鴨緑江の北朝鮮寄りには橋桁だけが残っています。この橋が「断橋」と命名され、観光名所になっています（入橋料 30 元<約 500 円>）。



## ■ 遊覧船で鴨緑江を往く

次に、我々三人は、遊覧船で鴨緑江見物をしました（50 元＜約 800 円＞で 40 分）。

河の一方、中国側には、丹東市の高層ビルが林立しており、もう一方の北朝鮮側には原野と所々に畑と工場が垣間見られます。両国間の経済的格差が歴然としています（次ページの写真を参照）。

なお、丹東市は人口が 300 万人とされています。ただし、

我がホームページ：「老後の生き甲斐を求めて中国で日本語教師」

<http://mura346.jimdo.com/南昌編/南昌の観光写真/吉安-宜春温泉>

で既に紹介したように、市の行政区分が日中で異なっています。中国の「市」は、人口の密集地帯である都市部だけでなく、周辺の広大な農村地帯（および小都市）を含めたものなので、日本の市に相当する都市部の人口はおそらく 100 万人以下だと思われます。

市の民族構成は、漢族が一番多く、その他に満州族、モンゴル族、回族、朝鮮族、シボ族です。この地帯はかつて、清帝国の支配者「満州族（女真族）」の故郷の一部となっており、満州族は総人口の 23% を占めているという。



## ■ その後

次に、「抗美援朝記念館」へ行きました。「美」はアメリカの意味で、朝鮮戦争で米国に対抗して朝鮮に義勇兵を派遣したことを記録した記念館です。

その後、海鮮料理店で夕食を摂りました。生きた魚介類を見て注文するのですが、言葉が通じず、結局写真にあるメニューから注文しました。なかなかおいしい味で満足しました。



海鮮料理店で夕食（アワビ・蛤・野菜など 4 品）

## ■ 虎山の「万里の長城」

二日目、この日も好天に恵まれてかなりの暑さでした。わたしは、北海道で幼少年期を過ごしたので、北国でも夏の日中はかなり暑いことを知っています。ただし、木陰に入ると涼しいし、

夜には暑さが引けて過ごしやすいのです。丹東も同様でした。「虎山の長城」は郊外にあるので、バスあるいはタクシーで行かねばなりません。

駅前で、小型タクシーの運転手に「虎山まで一人、10元（165円）で行くがどうか？」と誘われました。安いので乗ることにしましたが、とてもよかったです。街を離れると、一本道に車の往来は殆どなくなり、あたりには農村の田園地帯が広がっています。そして右側の鴨緑江は豊富な水をたたえて静かに流れている。対岸の北朝鮮には人家が途絶え、遙か後方には墨絵のように山がうねっていました。軽自動車なので50km/hr程度でゆっくり走っているのがまたよかったです。快い風に身を任せながら、小1時間牧歌的な気分を満喫しました。



さて、「虎山長城」に来ると、親切な運転手が、入山料を安くできる方法を考えしてくれました。実は、中国の観光地では本地人（ベンディレン；地元民）には、一般観光客とは別扱いにしたりする抜け道があります。江西省の廬山で李白の詩「廬山瀑布」で有名な滝へ登山するとき、バスの運転手が「地元の農夫に頼めば、只で裏口入山できるよ」と教えてくれました。農夫に尋ねたところ、「山が荒れているので裏口入山は危険だ！」というので、正規の入山口で金を払って整備された山道を登った経験があります。

ここ虎山では、運転手が二カ所も裏口入山所に案内してくれましたが、いずれも監視員がいて「外国人は認めない」と拒否されました。結局、正規の入山口で学生証を見せて60元（約1000円）の半額を払いましたが、親切な運転手の努力には感謝しなければなりません。

この日は週末にも関わらず、虎山長城には観光客が少なくゆっくりと見物できました。



虎山長城は明代の長城を復元したもの

ここ「虎山の長城」は、1989年の学術調査により、「万里の長城」の東端に位置することが分かったそうです。ここで、「万里の長城」の位置を確認しておきましょう（次頁にインターネット情報に基づいて、改変した地図を示す）。



「万里の長城」は、西は「嘉峪関」から東は「山海関」（およびそのちょっと先の渤海に突き出た所）までとされていました。ところが現在では、丹東の「虎山長城」を東端とし、遼寧省の撫順、瀋陽、金州を通過して山海関につながる新たな長城の存在が確認されました（これらは明代に女真族【清王朝の支配民族——満州族】への北の守りのために建設されたものです）。



山頂の望楼までの石段  
はじめは緩やかで 後は急峻



山頂の望楼より  
鴨緑江の向こう遙かに北朝鮮を眺める

万里の長城といえば、北京郊外の「八達嶺」が有名です。しかし、そこは中国最大の観光の名所として、まるでショウウィンドウを見るような感じであり、観光客でごったがえしているのに、私は北京へ行っても「万里の長城」は見えていません。

一方、ここ「虎山の長城」は「八達嶺」より規模は小さいようですが、観光客が少ないし、いかにも北の守りの「砦」といった雰囲気にあふれています。それに、丹東旅行ではじめて、「まさかこんな僻地に『万里の長城』があるなんて知らなかった！」という驚きと、築城の意図とは無関係ながらも、幻の北朝鮮を眼前に眺めた意外性もあって、ここがとても気に入りました。

中国の諺に「不到去过长城非好汉（長城に来たらざりし者男子に非ず）」とあります。とすれば、私もようやく一人前の男になりました。しかし「万里の長城」とは、それほどのモノなのか？

ここで、「万里の長城」の歴史的皮肉をご紹介します。万里の長城は秦代（戦国の七雄）に加えて、明代に新築および補強されたもの（青印）が多いのです。明代には築城技術が発達して、長城は煉瓦で固めた堅固な要塞となり、北方騎馬民族の侵略を防ぐに十分なものとなったはずですが。

それは、西安にある明代に再建された巨大な建造物「長安城」を見ても明らかです。



西安に赴任中に、元会社の友人6人が訪問した時に撮った。

明代に建設された長安城

しかし結局、国家の守りは「モノ」によるものではなく、人の「志」に帰せられます。明王朝末期には、暗愚な皇帝、宦官の跋扈により忠臣が退けられる、更に莫大な長城建設費用による国家財政の破綻などにより、最後には「李自成の反乱」で明王朝は滅びました。そして、逆臣呉三桂はあろうことか、明王朝の宿敵満州族（清軍）に「山海関」の大門を開いてしまいました。結局、堅固な「万里の長城」は無用の長物になってしまったのです。

虎山の近くに鴨緑江が5メートル程度に狭まったところがあります。この狭い河の中央が国境線で、一步跨げば北朝鮮に行けるので「一步跨」と呼ばれています。



こうして有意義な二日間の旅は終わりました。

わたしは、中国の教師生活8年間で北は西安から南は雲南省の昆明まで住んだことがあります。西安以北は未知の土地です。今回大連に語学留学することにより、中国東北部に目が開かれました。中国は地大物博の国、北の大地にはまだまだ訪問したい名勝旧跡がありそうです。（了）